

第9回

地域特性に応じた 住民共働による健康づくり 「きらきらウェルネス地域推進事業」

健康寿命を
のばそう!
AWARD
優秀賞

受賞者

豊田市（愛知県）

取組アクション

適度な運動

適切な食生活

禁煙

健診・検診

その他

中学校学区ごとに健康課題をまとめ住民主体の健康づくりを推進

背景・概要

愛知県豊田市は、平均寿命及び健康寿命ともに国や県平均を上回り、標準化死亡比は老衰が圧倒的に高く他疾患は平均以下のものが多い。一方で、特定健診受診率や特定保健指導率が低く、各種検査データが高値の者や運動習慣のない人が多いことから、市民の健康意識の向上と生活習慣の改善が課題となっていた。そこで、中学校学区ごとに地域診断結果をまとめた「地域健康カルテ」をもとに、地域特性に応じた住民共働による健康づくりを推進し、地域の健康水準の向上を目指すための事業としてスタート。現在は、市民の健康づくりを推進する事業として、「第8次豊田市総合計画重点施策」「健康づくり豊田21計画(第3次)」に位置づけられ、年次計画に基づき着実に推進。

取組内容

●中学校学区ごとの担当保健師と地域が共働で推進 中学校区ごとに配置された地区担当保健師が、各地区の住民や地域関係団体等と地域健康カルテにより地域の健康課題を共有し、PDCAサイクルに基づく健康づくりを住民と共に推進。具体的な推進方法は、①地域診断、②地域の意見交換会、③地域の健康づくり計画の作成、④計画に基づく事業の実施、⑤効果の検証及び事業の見直し、の5段階。地区担当保健師と住民とが連携や役割分担をしながら推進している。

成果

●地域特性に応じた健康づくりの広がり きらきらウェルネス推進事業に取組む中学校区の増加により、平成27年度から令和元年度の5年間で、地域の健康づくり計画に基づく事業数が15.7倍(472事業)、のべ参加者数が21.8倍(125,446人)に増加。住民主体による健康づくり活動や、学校・企業・医療機関等の地域のソーシャルキャピタルとの共働による取組の増加等、地域特性に応じた多様な健康づくりの広がりが見られる。また、未実施地区と比較して、特定健診受診率が高く、高血圧などの該当者率も低い。介護予防事業の自主活動グループ数(206か所)や実参加者数(3,630人)も5年間で2.5倍以上と増加。

●地域主体で持続可能な健康づくり PDCAサイクルに基づく中学校区単位の取組のため、目的や成果が行政・地域の双方にわかりやすく、住民の事業参加率が向上することにより、健康知識の普及や行動変容につながりやすくなった。更に、地域の健康づくり計画の作成で住民の役割を可視化したことにより、保健師等の専門職の介入が最小限であっても、地域が主体的に持続可能な健康づくりを行えるようになっている。



↑「きらきらウェルネス地域推進事業」の概要や取組内容、主な成果